



表題は一緒に歩む男女共同参画をイメージしています

男女共同参画庁内推進委員会現在活躍中

男女共同参画庁内推進委員会は職員十七名で構成し、大崎市の男女共同参画社会の形成を推進するための調査・研究や啓発活動を行っています。今年度第一回の庁内推進委員会では、大崎市男女共同参画推進審議会議長の東北学院大学法学部准教授三條秀夫氏から講話をいただき、市が目指す男女共同参画社会のあり方について意思統一を図りました。

四月からこれまで六回の庁内推進委員会を開催し、平成二十四年度年次報告書素案の作成と第2次大崎市男女共同参画推進基本計画の素案作成を行っています。

第2次男女共同参画推進基本計画の素案策定にあたっては、市の総合計画の重点プロジェクトに注目し、男女共同参画と総合計画をどう繋げるか、考えや思いをグループワーク（ワールドカフェ方式）で自由に話し合い、班ごとに大崎市の将来の姿を発表し合いました。

第2次大崎市男女共同参画基本計画の素案は、まだ作成途中ですが、委員の思いの詰まった一人ひとりが一人の人間として大切にされる社会をめざして「の実現に向けて作業を進めているところです。



リレー コラム

DVと夫婦ゲンカはどう違うか

大崎市男女共同参画相談室は古川駅前ふるさとプラザの2階にあります。私は毎月、第2、第4水曜日にカウンセラーとして仕事をしています。

ここの相談室で出会うことが多いのは、夫婦関係やDVの問題を抱えた女性たちです。DVの被害にあっている女性は友人や身内に相談したとき、「うちだって同じようなもんだよ」「もっとちゃんと話し合ったら」とよく言われます。DV夫は、自分の思い通りにすることが目的なので妻がどんなに努力をしてもコミュニケーションは成立しません。いつも、夫の顔色や機嫌をうかがい、怒らせないようにと思うので妻の自由はなくなっていきます。言いたいことを言い合って、勝ったり負けたり夫婦ゲンカとはそこが違います。

DV夫の「亭主関白」の隠れ蓑とソトツラの良さにだまされないで、被害女性の真実が届く社会に早くなってほしいなあ、と思います。



鹿島台子育て支援チーム まあま

鹿島台子育て支援チームまあま代表 鈴木美恵子さんは平成 16 年から平成 18 年まで活動していたが、一時中断。平成 20 年には再開の要望が強く活動を再開した。家庭教育・学校教育・地域活動支援と活動範囲は広く、家庭教育推進協議会が母体となり活動を進めている。今回は活動の一部でもある鹿島台子育て支援総合施設なかよし園での託児の様子を紹介。

ママ達の活動を支援するために、この日はママ達から離しての託児。その瞬間一斉に泣き叫ぶ子どもたち。子を預かる支援チームは、おんぶに抱っこと行動開始。徐々に子らの泣き声も静まりママたちが戻る 1 時間ぐらいの託児が始まる。

前年の活動回数は 50 回を数えるが、毎年新しい行事を 1 つ入れる目標があり、今年は、中学生を対象に防災について 11 月に講座を開催するとの事。常に前向きに進む「輝く女性たち」は、きょうも地域をしっかりと支えていた。



鈴木さんは後列右から3番目



大崎市女性消防団員

大崎市初の女性消防団員の佐藤花代さんと二人目の氏家直子さん。

大崎市で初の女性消防団員となった佐藤花代さんは、平成 18 年頃より自分にできるものは何かと模索中に制服と出会い惚れたという。最初は女性 1 人で気後れしていたが、今は現場第 1 と駆けつけるよう心懸けている。普段は畜産関係の仕事をしている。動物が好きな花代さんは自宅でも猫を飼っているそう。カメラを向けた瞬間、私服の立ち姿もカッコよく決まった。



大崎市で 2 人目の女性消防団員として活躍中の氏家直子さん。この日直子さんは、毎月開催している「ほっかぶり市 JAPAN」の会場にいた。普段の生活は農業を営み野菜を栽培している。「きいちごドレッシング」を商品化し、今日の会場にも陳列していた。地元で何かしようと集まった仲間 5 人が「ほっかぶり市 JAPAN」の主催者となり活動開始。次回は 10 月 19~20 日に活動 1 周年のイベントが総合支所において実施される。最初は恐る恐る消防団の活動に参加していたが、今は消防団に所属することが誇らしく、自ら進んで参加しているという。

地域で輝く女性たちは、「自分たちの地域は自分たちで守る」精神に基づき、地域の人たちが笑顔で過ごせるよう、しっかり見守っていた。

